



ロータリー:
変化をもたらす

2017-2018 年度

国際ロータリー会長 / イアン H.S. ライズリー 会長 / 佐々木 哲也 副会長 / 小汀 泰之
2690地区ガバナー / 池上 正 幹事 / 曾田 敏康 会計 / 高砂 明弘

■平田ロータリークラブ 事務局

〒691-0001 島根県出雲市平田町 2280-1 平田商工会議所 2F
TEL: 0853-63-3232 / FAX: 63-5365 / IP: 050-5204-5816
URL: <http://hirata-rotary.jp/> Mail: office@hirata-rotary.jp
9:00 ~ 17:00 (土・日曜・祝祭日 休局)

■例会プログラム

例会日	卓話者	演題
3月1日	会員 松浦 剛司	新入会員スピーチ
3月8日	休会	
3月15日	米山奨学生 ダシャ様	
3月22日	会員 岩浅 慎龍	新入会員スピーチ

■出席報告

会員数	出席者数	欠席者数	出席率	前々回補正出席率
44	35	9 (3)	85.37%	— %

■欠席者

大島卓 / 杉原 / 大谷良 / 岩浅 / 石原俊 / 園山 (山根 / 牧野 / 遠藤)

■来訪者

なし

■メイクアップ

2/15 飯塚大 (インド ガヤRC)

■次回例会受付当番

(3月15日) 板垣文江 / 園山 繁 / 杉原朋之

(3月22日) 日野寿明 / 高砂明弘 / 田中浩史

■近隣クラブ例会情報 (メイクアップを考えましょう)

月	出雲中央	3/19(-)	4/9	4/23(-)	松江南
		5/28(-)	6/18	6/25(-)	
火	出雲	3/13	3/20(-)	5/1(-)	松江しんじ湖
水	大社				松江
木		(-)	ビジター受付 なし		松江東
金	出雲南				

■会長挨拶

ピョンチャンで開催されたオリンピックが終わりました。日本人選手、特に女性の活躍がめざましい大会でした。選手がこのオリンピックを目指して日々の練習を積み重ねてきた結果でしょうが、スポーツの世界での栄枯盛衰を感じる大会でもありました。3月9日から始まるパラリンピックでも、日本人選手が各自の力を発揮されることを祈りたいと思います。

昨日は2月28日。今年は閏年ではありませんので今日は3月1日ですが、夏のオリンピックが開催年にあたる4年に1回の閏年ならば今日は2月29日となります。当クラブの歴代会員の中に2月29日生まれの人が2名おられました。1人はチャーターメンバーであり現在もご健在である仲田和夫先生、もう1人は仲田先生と同じ生年月日の私の義父大田高芳です。

2月29日生まれの人は誕生日が4年に1回しかこないの、4年で1歳しか年をとらないなどの戯言を昔言っていたような気がしますが、そんなことはありません。明治35年に施行された「年齢計算に関する法律」には、誕生日の前日の午後12時(24時)に年をとると規定されていますので、2月29日生まれの人は毎年2月28日に年齢が増えることになっています。

前日の24時と当日の0時は同じ時刻を指していますが、属する日が違うことにより、法律上の違いが発生します。この規定により、新年度初日である4月1日に生まれた人は、年度末の3月31日には年が増えていることから、6年後に、前年4月2日から同年3月31日までに生まれた人と一緒に小学校入学を迎えることになる究極の早生まれになります。今日は2月29日に

まつわるお話をさせていただきました。

最後に、以前からお話しております4月8日日曜日朝からの5クラブ合同植樹プロジェクト例会ですが、当日は作業のできる服装で、朝8時には出雲文化伝承館に集合、8時半からは事業が始まります。そして数年前に作成したクラブ揃いのピンクのジャンパー着用をお願いしたいと思います。ピンクのジャンパーをお持ちでない方には、それぞれ個別に購入をお願いさせていただきます、クラブでまとめて作成しますので、ぜひご協力をお願いいたします。

■幹事報告

1. ロータリーレートの変更 3/1より1ドル 108円 (現行110円)
2. 4/8(日)5RC合同植樹プロジェクト出欠表の回覧
3. 地区米山奨学生学友会より会報誌が届きました (回覧)

■次年度幹事報告

次年度委員長の発表

地区研修・協議会のご案内

日時 4/15(日) 受付 10:30~ 本会議 11:00~17:00

会場 岡山コンベンションセンター

出席義務の6名は ご出席下さい

会長エレクト

次期幹事

次期職業奉仕委員長

次期社会奉仕委員長

次期国際奉仕委員長

次期青少年奉仕委員長

■委員会報告

出席親睦委員会 : 3月の会員誕生・伴侶誕生・結婚記念祝



情報・雑誌委員会 : ロータリーの友 3月号の紹介

社会奉仕委員会 : 4月8日5クラブ合同植樹 ジャンパー購入の案内

■スマイル

佐々木 (松浦会員の新しい新入会員スピーチ、楽しみにしています。飯塚大幸 会員、インドのお土産ありがとうございました。おいしく頂きました。)

曾田 (松浦会員、本日のスピーチ宜しくお願い致します。楽しみにしております。)

伊藤 (孫の大橋健典が山陰中央新報からスポーツ大賞を頂きました。)

大谷厚 (松浦会員のスピーチを期待して！)

飯塚大 (遅くなりましたがインド土産のチョコレートお召上がり下さい。ご協賛いただき有難うございました。)

■スピーチ・例会行事

新入会員スピーチ 松浦 剛司 会員

青年会議所を卒業してからの10年をお話させて頂きたいと思います。この10年を一言で言うと、子供たちの教育へ特化した10年であったように思います。私は青年会議所卒業の40歳になる最後の年、その年がちょうど青年会

議所創立 40 周年の年であり、「ひらた 100km 徒歩の旅」は創立 40 周年記念事業でした。流れとして、35 周年の年にちょうど学校に完全週 5 日制が導入され、このあたりから日本青年会議所も青少年教育問題に力を入れはじめ、40 周年の頃には青少年教育に特化して活動を行うようになっていました。私の前理事長は清原さんです。その年は道徳の出前授業を複数の小学校にて何回も行いました。そして私の年には歴史教育の授業を学校現場に持ち込みました。この事業は「近現代史教育プログラム」というもので日本の自虐史観を見直そうというもので、その事を国会の共産党議員が取り上げ、文科省大臣に向け「島根県の平田青年会議所という団体が学校の教育現場において戦争美化の授業を行ったが、どう思うか」との質問を行った訳ですがよく調べもせず、「誠にけしからん」と返答されてしまったのです。そこから複数の新聞社の取材攻勢が私にあり、出雲市教育委員会から呼び出され、騒ぎになりました。

青年会議所卒業後は、教育関係のお役で呼ばれるようになります。当時、小中学校で学校運営理事会が立ち上がり始め、平田中学校の学校運営理事に就任。また同時期に、私の娘が幼稚園に通っており、PTA 副会長、娘が年長になる年には平田幼稚園創立 100 周年を迎え、その時には PTA 会長をしました。2015 年からは、出雲市の教育委員に就任しております。これも、「ひらた 100km 徒歩の旅」の影響(お陰)かなと思います。

「ひらた 100km 徒歩の旅」は、一昨年 10 回を開催し幕を閉じました。参加者は、延べて小学生が 400 名弱です。この事業の目的は子供たちに「困難を乗り越える力」「問題解決能力」付けて欲しい、それを我々は生きる力を育むとしていました。5 日間 100km を歩くことで、足は相当痛くなりますし、8 月の真夏炎天下のアスファルトの上の影響、さらに時間管理は非常に厳しく、5 日間相当なストレスの中で暮らします。しかし、途中で“へこたれて”やめる子は一人もいませんでした。目的とは別に、感謝をすることを徹底して子供たちに伝えます。朝は親が起し、ご飯を食わせてくれて、着るものにも不自由せず、冷暖房の効いた快適な家で寝る。当たり前が当たり前ではないことを体感させます。歩くのに安全に配慮するスタッフ、体をケアする救護スタッフ、水分補給を用意するスタッフ、5 日間分の荷物を宿泊地から宿泊地へ輸送するスタッフがいる。食事を用意するスタッフがいる、そして 100km を歩く道のりをともに歩き励ます大学生スタッフがいる、そうして子供たちの成長のために時間を割き支えてくれるスタッフに、素直にありがとうと言える子供たちになって欲しい。それを暮らしの中に置き換えると家族がすべてを自分のためにやってくれていることを自覚し感謝する。困難を乗り越えるのは自分、だけど生きていくには一人ではできないことを体感する、こういったことを体験するプログラムでした。事業の終了にあたり参加した子(今はもう大学生になっています)や、保護者の皆さんから感謝や終了を惜しむ声もたくさんいただきました。

教育委員になってのお話をします。教育委員は任期が 4 年です。職務としては月 1 回定例会、夏・秋に学校訪問、夏休みに校長先生と懇談会、そして春に卒業式・入学式に 3・4 校、出席の割り当てがきます。他に出雲市総合教育会議など市長と教育について意見交換の場があります。就任し驚いたのですが、昔は担任・副担任・教科専門教員程度の人員でしたが、今は特別支援、通級指導、スクールヘルパー、不登校対策指導員、スクールソーシャルワーカーなど一般の生徒と様々な知的・心的障害、発達障害、学級に入れない子、学校に来られない子、多種多様な子供たちの様子に応じ、それぞれ専門分野の先生から補助的役割の方など多くの人員が携わっている時代になっていたことです。人が係わるとなれば人件費が必要で

が、国も県も市も財政難です。しかし現場は人を増やしてくださいという話ばかりです。出雲市は、他市町村に比べこうしたことにかかる予算はかなり手厚くやっています。子供を育てるのには良い街と呼べるのではないのでしょうか。

学校でのトラブル、特にいじめの問題についてお話しします。実はここ数年で「いじめだ」という判断基準を低くし、重大事案になる前に、解決にあたらうという取り組みで、現場で「いじめ」と認められる件数は 3 年前からすると 3 倍、4 倍になるようになりました。先生からすると当初、こんなこともいじめなのか？これはよくある些細な喧嘩やトラブルではとの声があったようですが、一方で担任レベルでは解決できず対処も遅れ、不登校になった事例は暇がなく、私としてはやはり担任、主管教諭・教頭・校長そして当事者の保護者がともに早期解決を図るべきではないかと思っています。わが子は小学 6 年生ですが、娘の話からいじめのような案件のプロセスを見ると、子供の手では止められず集団に属しようとする帰属性もあり、解決できないだろうなというのが正直なところ。皆さんもよくご承知のスマートフォンなどでの SNS(とくに LINE)のトラブルは心配です。実際、いじめとして認定される件数は非常に少ないのですが、一方で近な情報で、小学校 6 年の 1/3 が LINE グループに入ってやり取りをしており、夜中に数百件にも上るやりとりがあるそうです。このことは担任も把握しておられません。こうした LINE でのトラブルはまだ水面下のことではないかと思っています。大切なのは親が、使い方をどう指導するのか、管理するのかにかかってくる。

ほかに、働き方改革もひとつ問題です。これは教育界も例外ではなく、もっともブラックな業界のひとつとも言われています。いろいろな方法で負担軽減ができる余地もあろうかとは思いますが、教員の中には純粋に子供たちのためを思って頑張っている方々が大半であろうとも思います。急激に過度なやり方で教員のやる気をそぐことになるのも本末転倒であると思います。ただ負担軽減措置の項目の中に部活動への関りもあります。自分の思うところとしては、特にスポーツ界において話になりますが、昨今スポーツ少年団から部活動における一部保護者の過熱化や、安全面健康面に無知な指導や経験のない教員が顧問にならされています。公立中と私立中の取り組みの温度差、多岐にわたり課題があると思います。

最後になりますがケーブルの事をちょっとだけ。今年会社設立から 15 年、開局から 13 年になります。設立からこの地域に光をあてる、住民の皆さんの笑顔や活躍にスポットをあてる、その信念はもとよりではありますが、2011 年の未曾有の災害を経て、ケーブルテレビの災害インフラとしての在り方も役割責任は非常に大きく感じるようになりました。設立時には想像もしていませんでしたが、ケーブルテレビが携帯電話を販売するなど、目まぐるしく変化する情報化社会への対応もせまられるようになりました。番組制作においてはより住民の皆さんの生活に深く焦点をあて、頑張っている人はもちろん、日常の喜びや幸せなその顔を紹介できるようにローカル局ならではの放送に取り組んでいこうと思います。

